

参加報告書 (インドネシア・ブディルフル大学)

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について (200 字以上)

高校生のときから大学生のうちに留学に行きたい、とずっと考えてきた。私が留学をしたい理由は「世界を知りたいから」であり、留学を通して、日本との相違点を自分の目で確かめて、それを自分の五感を使って感じたいと考えていた。このプログラムの概要を読んだときに、語学留学ではなく、現地の方とたくさんコミュニケーションがとれて、一緒に活動ができるプログラムだと分かり、自分が求めている留学に合致していたため参加を決めた。留学費用が自分のバイト代でも手がとどくものだったこと、国際日本学部主催であるため手厚いサポートが受けられるところもこのプログラムへの参加を後押しした理由である。

② プログラム内容について (各項目 200 字以上)

1. ボランティア活動・ワークショップについて

ボランティア活動としては、・インドネシア料理のお弁当作成・ゴミステーションの壁のペンキの塗り直し・周辺のごみ拾い・老人ホーム訪問（たこ焼きをつくったり、一緒にダンスをしたりした）・孤児院訪問（折り紙をつかって遊んだり、抱っこやおんぶをしたりした）を行った。ワークショップは日本文化を紹介するワークショップを行った。日程は大学で 2 日間、高校を訪問するのが 1 日あった。内容としては、・たこ焼きづくり・折り紙で紙人形作り・書道・プラスチックカップで風鈴づくりを行った。25 人くらいのグループを 2 人の明大生と 2 人のバディーが中心に担当した。言葉が伝わらないところもあったが、現地の高校生がたくさん話しかけてくれるので、英語でコミュニケーションがとれた。ワークショップに向けて自分たちで試作する日が一日あった。高校では書道と紙人形作りをした。また、ワークショップに来てくれた高校生を招待して、最終日に縁日フェスティバルを実施した。

2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

インドネシア語の授業、伝統的な踊りのクラス、伝統的な歌のクラスの 3 つがだいたい 1 週間に一回ずつあった。その日の活動にかかった時間によって、延期になったり、時間がずれたりしたが、滞在中に各授業 2, 3 回ずつあった。歌の授業ではバディーがピアノとギターの伴奏をしてくれた。ダンスの授業ではバディーたちが一緒に踊ってくれた。最終日の縁日フェスティバルの時に歌とダンスは皆の前で披露した。とても楽しかった。

3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

行きの電車が快適だった。日本の新幹線と似ている。リット先生とイス先生とバディー 1 人と明大生で行った。ホテルがきれいだった。歯ブラシ、水、お茶、ドライヤーはついている。バスタブはない。シャワーのみだったことに驚いた。部屋は 2 人部屋で、ベットだった。アウトレットを散策し、おしゃれなカフェでお昼ご飯を食べた。夕飯は町のおしゃれなレストランでイタリアンを皆でシェアして食べた。夜のバンドン散策もして、新宿と似た雰囲気を感じた。2 日目は、庭園のあるカフェで朝ごはんを食べ、インドネシアの伝統料理を扱うお店でお昼ご飯を食べ、大学のシャトルバスにのって寮に戻った。おいしいものがたくさん食べられたのと、インドネシアのホテルを経験できたことが普段の寮生活とは異なるところでよかった。ジャカルタとは異なるバンドンの歴史ある町の雰囲気も楽しむことができた。

③ 本プログラムへの参加によって得たこと、および感想（200 字以上）

このプログラムに参加して、バディーと仲良くなれたことがとても嬉しかった。つたない英語でも理解しようとしてくれて、コミュニケーションが取れた。「もっとスムーズなコミュニケーションがとりたい」という思いから、英語学習に対するモチベーションが上がった。バディーは普段の生活でも、どこかに出かける時には必ず一緒にきてくれたので、言語の面でも、生活面でも、安心してインドネシアを楽しむことができた。インドネシアの生活様式ややりもたくさん教えてもらった。また、ボランティア実習という形だったので、現地の人と関わることもできた。国は違うけれど、やさしさや温かさは全世界共通であることを実感した。また、日々の暮らしの違いも印象に残っている。インドネシアの気候は、夏でもからっとした暑さのため生活しやすかった。お手洗いの違いが印象的で、ショッピングセンターのお手洗いは日本のものと似ているが、美術館や街中のものはトイレトペーパーがなく、水を使って手動で流すものであった。また、町の雰囲気も日本とは違った。富裕層と貧困層が混在している感じで、通り一つ挟むだけで建物の雰囲気が変わっていた。道路をバイクがたくさん走っていたのも驚きだった。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

治安はよかったと思う。一人での外出は心配だが、数人で移動する分には危険は少ない。また、バディーがついてきてくれるので安心感があった。ひたくりには一度も会わなかった。キャンパスは 5 回のラウンジで活動することが多かった。ウォーターサーバーが設置してあるので、水はいつでも飲むことができる。ショッピングセンターは日本よりも大きくてきれいかもしれない。

2. 食事について

お昼ご飯は毎日いくつかの候補の中から自分たちで一つ選んで頼むことができる。活動しているラウンジの隣の部屋に用意しておいてくれるので、お昼の時間になったらそこで明大生全員で食べた。朝ごはんは寮の持ち主の方がパンとコンフレークを買っておいてくれるのでそれを食べた。日本から持ってきたご飯と味噌汁を食べている人もいた。夜は日本から持ってきたものを食べたり、「Grab」というアプリを使ってモバイルオーダーしたり、マックのテイクアウト等を食べた。一度、寮の管理人の方が日本食を作ってくれて寮に届けてくださった。インドネシア料理はあっさりとしたものが多くて食べやすい。辛いチリソースが必ずついてくるので、かけすぎには注意が必要。

3. 交通手段について

移動の時はだいたい大学のバスで送り迎えしてもらった。毎朝時間でバスが寮まで迎えに来てくれるので、それに乗ってキャンパスへ向かう。帰りは活動が終わったところで、先生がバスをスタンバイさせておいてくれた。学校帰りに運転手さんに頼んでスーパーやコンビニ、カフェやショッピングセンターにいくことができる。「Grab」というアプリを使って、タクシーを呼んでもらって、それに乗って移動したこともある。

4. 通信環境について

e-SIM（20GB）を日本で購入し、使用した。10GB 以上余ったので、多くても 15GB あれば十分だと思う。キャンパスと寮には Wi-fi があるので、通信速度においてあまり不便は感じなかった。

5. 買い物事情について

日本とあまり物価は変わらないように感じた。飲むヨーグルトが朝ごはん用におすすめ。水は日本よりも安くて 1 本 40 円前後。寮から徒歩 8 分くらいのところに HERO というスーパーがあり、そこでだいたいのはそろう。お惣菜はない。学校帰りによることができるので、3 日に 1 回くらい行った。お土産のお菓子もそのスーパーで

買える。道路には出店もあるが安全性がわからないので買わなかった。

6. 医療事情について

出発前に保険に加入するため心理的に安心感があった。胃腸薬は持っていくとよい。滞在中、一度のどの痛みがあったので、のど飴を持っていくとよい。また、腹痛に備えて胃腸薬も持っている则安心。

7. その他、現地での生活等に関して、参考となることがあれば教えてください

延長コードがあると便利。寮はシャワーのみ。洗濯は 1 週間に一回が目安。手間はかかるが手洗いはおすすめ（持っていく下着を減らすことができる）

以上